

日本におけるコーヒーチェーン店の 店舗展開の比較

目次

1. 研究背景
 2. 研究目的
 3. 研究内容
 4. まとめ
 5. 考察
 6. 今後の課題
- 参考文献—

東海大学 情報通信学部
経営システム工学科
信常 帆南

1. 研究背景①

現状：日本は世界第4位のコーヒー消費量である
関連商品は年間1～3%の伸びでコーヒー市場は
増加傾向にある



図1. 国別コーヒー消費量^[6]

1. 研究背景②

食の欧米化

コーヒーを飲む機会、場所の増加

コーヒー市場
拡大

インスタントコーヒー、缶コーヒー
コーヒーチェーン店の増加
近年、ファーストフードや
コンビニでもカフェに力を入れている

差別化
戦略が必要

異業種が加わったことで競争が激化^[8]

1. 研究背景③

- ▶ 日本に出店しているコーヒーチェーン店^[8]
 - ▶ スターバックスコーヒー シェア **トップ**
 - ▶ ドトールコーヒー **2位**
 - ▶ タリーズコーヒー **4位**
 - ▶ …

急激に成長を遂げているコーヒーチェーン店
コメダ珈琲、星乃珈琲、ミヤマ珈琲



上位の共通点：居心地の良さ、雰囲気^[9]

1. 研究背景④

シェアトップであるスターバックスコーヒーの店舗数を取り上げてみると

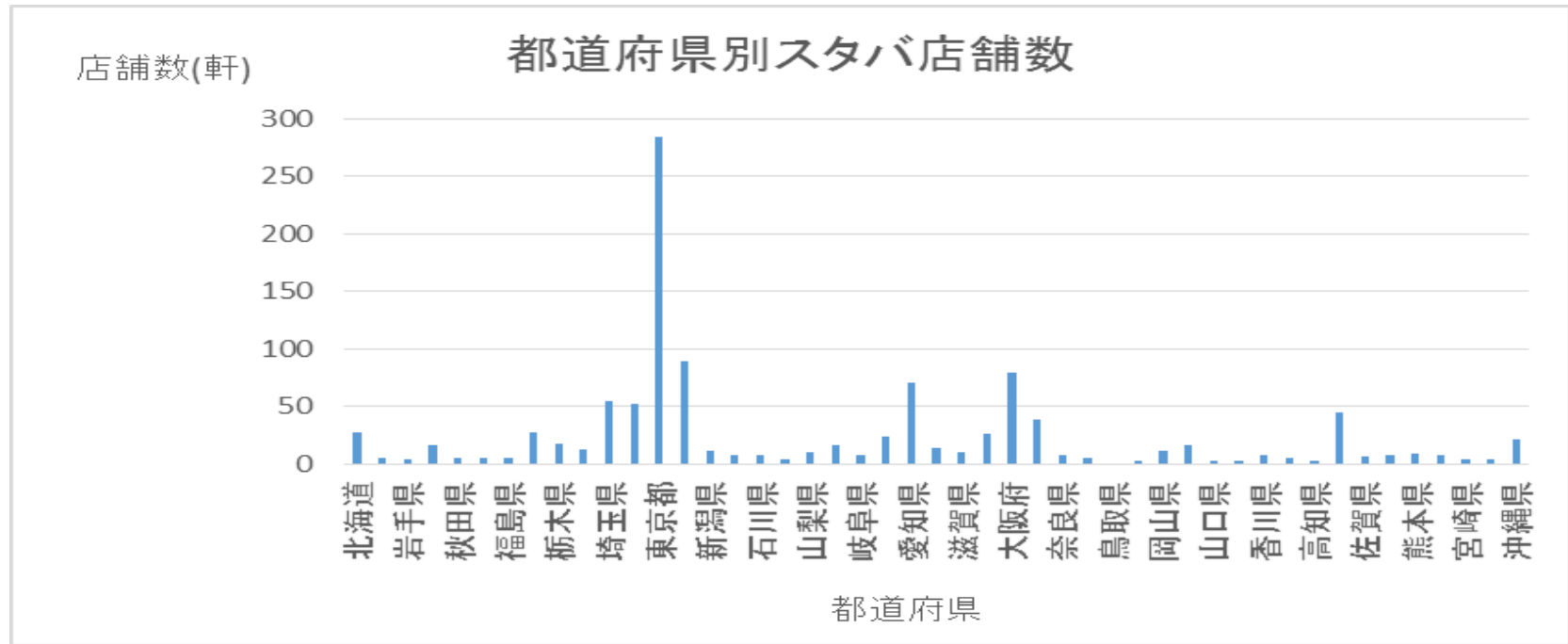


図2. 都道府県別スタバ店舗数^[4]

結果：都道府県別で見ると、明らかに東京が多いことがわかる

1. 研究背景⑤

- スターバックスコーヒーがシェアトップでいる理由

○居心地の良さ、雰囲気
カスタマイズ可能
対応の質

×安価ではない



他店との差別化、
サービス・コーヒー全てのものに対し
質の良さを提供

- シェア2位のドトールコーヒー

店舗数日本一、価格は比較的安価

✓ 対象とするコーヒーチェーン店

スターバックスコーヒー

世界展開している

コーヒーチェーン店

日本シェアトップ

⇒ 図書館など独自の

店舗展開をしている

⇒ 単価は高価に設定している

・男女共にすべての年齢層から
支持を得ている^[7]



株式会社ドトールコーヒー

日本発祥の

コーヒーチェーン店

日本シェア2位

⇒ 店舗数は日本一である

⇒ 単価は比較的安価

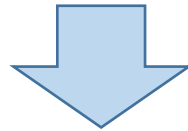
・スターバックスコーヒーに次いで
顧客からの支持を得ている^[7]



2. 研究目的

研究背景より

東京都は他県と比べ店舗の数が多
⇒焦点を東京都23区にあてると、店舗がない区がある



目的

対象の都道府県を東京都23区に絞り、
店舗がない区と他の区との違い、
東京都23区の店舗展開の背景を探る

本研究では2つのコーヒーチェーン店を対象を絞り、分析を行う

✓ データについて

- 店舗数から比較するため、従属変数をスターバックスコーヒーとドトールコーヒーのそれぞれの店舗数にする
- 変数(すべて23区別のデータ)
人口、面積、女性人口、住宅賃の平均、その区に在住している外国人人口(中国、アメリカ)

3. 研究内容

店舗数に関連するデータを探り、データを把握する

 今後の店舗展開の予測を行うため回帰分析を行う

<分析手順>

- 重回帰分析(TIBCO Spotfire S+® 8.2J Linear Regression)
 - ▶ スターバックスコーヒー/ドトールコーヒー
 - 従属変数:スタバ店舗数/ドトール店舗数
 - 独立変数:人口、面積、女性人口、住宅賃平均、
中国、アメリカ

研究内容～分析結果①～

- スターバックスコーヒーの分析結果

表2. スタバ分析結果

有意確率から
⇒住宅賃平均、中国、アメリカを
回帰式に用いる

係数		
モデル	係数	有意確率
(定数)	-13.81	0.016
人口(人)	0	0.104
面積	0.223	0.359
女	0	0.101
住宅賃平均(円)	0.00002	0
中国	0.001	0.002
アメリカ	0.005	0.007

決定係数 = 0.891

回帰式 $y = 0.00002x_1 + 0.001x_2 + 0.005x_3 - 13.81$

23区別の人口は店舗数に対する影響が小さいが、
中国人やアメリカ人が在住している人口データは影響を与えている

研究内容～分析結果②～

・ドトールコーヒー分析結果

有意確率から
⇒住宅賃平均を
回帰式に用いる

決定係数 = 0.705

回帰式 $y = 0.00003x_1 - 14.2238$

表2. ドトール分析結果

係数		
モデル	係数	有意確率
(定数)	-14.2238	0.062
人口	-0.00009	0.69
女	0.000222	0.583
住宅賃平均	0.00003	0
中国	0.000964	0.068
アメリカ	-0.00219	0.336
面積	-0.18995	0.571

スターバックスコーヒーと同じように23区別の人口は影響が小さい
相違点として、ドトールコーヒーの場合は
中国人とアメリカ人が在住している人口データも影響が小さい

4. まとめ

①店舗展開の共通点



住宅賃の平均

✓住宅賃の平均が**高い**ほど店舗数が多い

②分析から見えた相違点



その区に在住している
外国人人口

✓スターバックスコーヒー: **影響大**

✓ドトールコーヒー: **影響小**

5. 考察

▶ドトールコーヒーはその区に在住している外国人人口の影響が小さい

⇒ドトールコーヒーは日本が発祥のため、外国人への**知名度**が低いことが理由として挙げられる

▶住宅賃の平均が高いほど店舗数は

スターバックスコーヒー、ドトールコーヒー共に多い

⇒コーヒーチェーン店は店舗展開する際

住宅賃の平均を一つの目安として考慮できるのではないか

5. 今後の課題

- ▶ 店舗展開の背景を見るため
さらに変数を増やしていく必要がある
- ▶ 今後、顧客に対するアンケート調査から
コーヒーチェーン店に対する意識調査をする



- ▶ 今回、東京都23区のみでの分析であったが
都道府県に視野を広げ店舗展開の背景を探る

参考文献①

[1]都内区市町村マップ:

http://www.metro.tokyo.jp/PROFILE/map_to.htm

(最終閲覧日 2015/10/26)

[2]特別区の統計:<http://www.research.tokyo-23city.or.jp/34toukei01.html>

(最終閲覧日 2015/10/26)

[3]東京都の統計:

<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/gaikoku/2015/ga15010000.htm>

(最終閲覧日 2015/10/26)

[4]スターバックスコーヒージャパン:<http://www.starbucks.co.jp/>

(最終閲覧日 2015/10/26)

[5]日本全国チェーン系カフェマップ:

<http://cafe.geomedian.com/category/doutor/>

(最終閲覧日 2015/10/26)

参考文献②

[6]AGF:

<http://www.agf.co.jp/enjoy/cyclopedia/zatugaku/circumstances.html>

(最終閲覧日 2015/10/26)

[7]コーヒーチェーン店アンケート ソフトブレーン・フィールド

http://www.subfield.co.jp/news/2013/08/30_110000.html

(最終閲覧日 201/10/26)

[8]業界動向: <http://gyokai-search.com/3-cafe.html>

(最終閲覧日 2015/10/26)

[9]livedoor NEWS <http://news.livedoor.com/article/detail/10765418/>

(最終閲覧日 2015/10/28)

Appendix

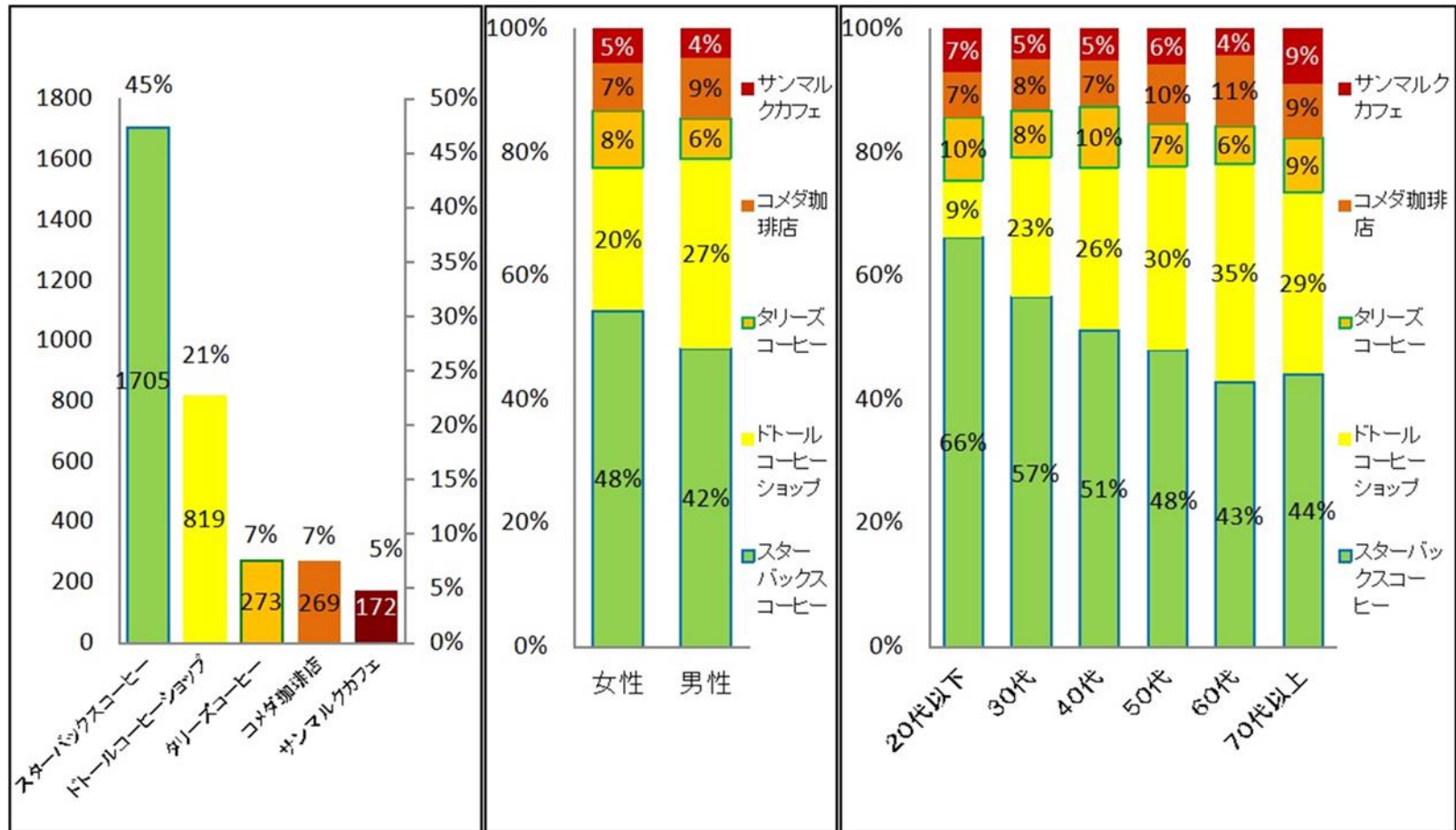


図3:コーヒーチェーン店に対するアンケート調査^[7]

Appendix

- ・回帰式

- ▶スターバックスコーヒー

- $x_1 =$ 住宅賃平均, $x_2 =$ 中国, $x_3 =$ アメリカ

- ▶ドトールコーヒー

- $x_1 =$ 住宅賃平均

- ・データについて

- ▶23区、スタバ・ドトール店舗数、男女人口、外国人人口:(2015)

- ▶年齢層:(2014)